令和元年度　北海道地域評議会

１．開催日時・場所

令和２年２月２１日（金）　１４時００分～１６時３０分

森林総合研究所北海道支所　大会議室

２．評議会委員

河野裕之　委員（北海道森林管理局森林整備部長）

佐藤冬樹　委員（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長）

谷　一之　委員（下川町長）　（欠席）

３．出席者

北 海 道 支 所：支所長、産学官民連携推進調整監、地域研究監、チーム長、グループ長、地域連携推進室長、総務課長

北海道育種場：場長、連絡調整課長、育種課長、遺伝資源管理課長、育種技術専門役

札幌水源林整備事務所（オブザーバー）：所長、次長

４．評議会内容

(1) 令和元年度活動報告

森林総合研究所全体の組織・課題構成等を共通部分として紹介した後、北海道支所と林木育種センター北海道育種場の組織・課題構成・資金・連携橋渡し状況・行事及び広報活動についてそれぞれ説明を行った。

(2) 北海道支所研究紹介

①「ヤブツバキが受け取る花粉プールの遺伝的多様性を維持する鳥媒花粉散布の緩和効果」

②「ササ類の植物ケイ酸体がもたらす土壌生成作用－粒径分布における役割－」

(3) 北海道育種場業務紹介

「グイマツ雑種 F_1を判別する新しい DNA 鑑定手法の開発」

５．評議会委員からのコメント・助言

・森林管理局では、国有林を研究フィールドとして提供し、森林技術・支援センターでの研究開発も含めて技術的な助言をいただいている。森林機構では今中長期目標で「橋渡し」を重視しているとのことだが、事業体を交えた検討会でも研究開発成果をさらに普及してもらいたい。
今後、主伐の増加に伴ってカラマツ類の造林が広がっていくと思われるが、昔のように殺鼠剤は散布できないので、成長に優れ耐鼠性をもつグイマツ雑種 F_1に期待している。
中長期目標に向かって計画を立てて５年後に評価するという過程の中で、研究成果を国民にわかりやすく公表することが大切だと考える。

・道北では、北海道開発局が主導して上川北部地域の活性化を図っている。その中心が下川町と国有林で、林業と観光が目玉になると思う。森林総研で培った研究成果を還元してほしい。
森林総合研究所の現行の研究課題の中には、道北で行っている Ecological　Forestry（生態系に配慮した林業）と合致したものがあり、次期（第５期）中長期計画でも継続してもらいたい。